

神学校週間によせて

2021年6月27日 [日] ~ 7月4日 [日]

私、教会の「女性会」メンバーでもありません

西南学院大学神学部部長 濱野道雄

いつも、そして今年の神学校週間も皆さまの教会で、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校、そして西南学院大学神学部で学ぶ神学生を覚え、私たち共同の働きとして支えてくださり、あらためて御礼を申し上げます。そしてその整えをして下さっている全国壮年会連合の皆さまに敬意を表します。

もちろん、神学校週間を覚えて支えて下さっているのは諸教会の壮年会だけでなく、女性の方々や多くの方々もそうでしょう。私は、協力牧師を務める鳥栖教会で、昨年度は壮年会会長でありましたが、今年度は「女性会」のメンバーになりました。正確には「元女性会」でして今年度から性別を問わずメンバーになれることになり、名称も「オリーブ会」に変わりました。鳥栖教会女性会の皆さんが、世界宣教や小羊会を支える働きを男女で分ける意味を問い、またLGBTQ(性的少数者)の人権を考える時に「男と女」しかないとする誤りを問い(ガリテヤ3:28)、総会で会のあり方を変えたのです。かと言って、すぐにすべての教会や、尊い働きをなさっている日本バプテスト女性連合も同様にするべきだ、と私は考えません。鳥栖教会女性会の総会でも、「女性が差別から味わう痛みを女性だけで語り合うために、女性だけの会をつくる意味がある場合もある」と鋭く、深く協議してくださいました。

では壮年会(こそ)はどうかでしょう。「壮年」という言葉は元来、性差関係なく使う言葉です。どこかでそのあり方を考え直せば、と私は思います。それはジェンダーやLGBTQの問題であると共に、どのような伝道者を、どのような奨学金で、どのように時代を理解して支えようとするか、祈っているのか、ということに関わると思っています。皆さまはどうかお考え下さい。さあ、楽しんで語り合い、将来の牧師や主事と一緒に、喜びをもってサポートしていきましょー!



◎神学生の証し◎

学びと感謝



柏 雅之
東京バプテスト神学校
神学専攻科1年
(経営教会推薦)

神学生を支えて下さっているすべての方々に感謝いたします。私が伝道の業をめざす理由はシンプルです。神ご自身が人として生まれ、罪を除き、死を滅ぼし、永遠のいのちを与えられたという奇跡中の奇跡である福音がどれほど大きな恵みであり、なくてはならない希望であるかを自分と与えられた言葉で伝えることへの強い思いを与えられたからです。また、信仰の葛藤の中で先人の伝道者たちの著書や説教集をおして大きな恵みを受けてきましたが、それらに少しでも報いたいという思いもあります。学びの中ではしばしば感動や驚きを発見します。伝道はキリスト者すべての責務ではありますが、むしろこうした新鮮な感動、驚き、喜びに突き動かされてなされるものだと私は思っています。

講義は、対面式、ZOOMによるリアルタイム配信、そしてオンデマンド配信の3種類で行われていますが、2020年度からは感染症対応のため2つのオンライン方式のみで実施されています。オンデマンド方式の場合、受講生はレポート作成が要請されます。この作業が、恵みのひとつとなり得ます。奉仕されている多くの講師は、多様な信仰や神学的立場を背景に講義されます。バプテストの場合、その幅はより広いでしょう。レポートを作成するときには、こうした多様な考え方に對して謙虚さをもって咀嚼していくことが求められます。ときには、場合もあります。しかし、こうした積重ねの中で、自分のよって立つべき信仰のあり方を吟味しなおすことができ、そこに再発見があり、信仰はかたちづくられていくのではないかと考えています。



◎東京バプテスト神学校 神学概論授業 Web 授業

神と人に仕えるために



間村史子
九州バプテスト神学校
専攻科2年
(宇美教会推薦)

主の尊い名を賛美いたします。神学校を覚えて、お祈りや献金で支えて下さり感謝申し上げます。九州バプテスト神学校で学び始めてから4年1ヵ月ほどが過ぎました。本科1年目からずっと神学校で、「神学を修めるのは、神と人に仕えるため」という目的と、「教会はひとりの人の命を大切にすることを共同体である」というキリストの体のあり方を、明確に学び続けることができ感謝しています。

昨年度は、札幌教会で主事として働きながら神学生として研修を受けるという恵みに与りました。また福岡に戻り、今年度も同じく、宇美教会で主事として働きながら神学生として研修を受けることとなり、神さまの不思議な導きに驚きつつも、憐れみと慈しみに感謝する恵みの日々を過ごしています。

サーバントリーダーシップという人々に仕えるリーダー像が、一般社会でも取り入れられているようですが、私自身も主事という仕事をさせていただく上で、「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」(マルコ10:45)という、みことばをしっかりと握りしめて、神と人に仕えていきたいと願っています。

コロナウイルス感染拡大という大変な状況の中で、1日、1日を大切に、1歩ずつ、1歩ずつ、主イエス・キリストと共に歩めますように。キリストの体である教会が豊かに祝福され、主イエス・キリストの栄光となりましますように。祈りと感謝をこめて。



◎九州バプテスト神学校「教会史」授業風景

出合いの恵み



林守鎮
西南学院大学神学部
専科3年
(鳥飼教会推薦)

入学した時が今でも鮮明に頭の中にありますが、もう最終年次になりました。勉強を始めた時から今まで、私のことを覚え、お祈りしてくださり、支えて下さった皆さまに感謝を申し上げます。

西南学院大学での神学の学びを通して、数えきれないほどの大切な「絆」が与えられました。入学前には、神学部での学びが、単に神学の勉強、伝道者としての準備期間であると考えましたが、振り返ってみると、さまざまな出合いの恵みに与って過ごしてきたと思います。一緒に励まし合いながら学んでいる神学部の仲間たちをはじめ、大切な教えをくださった教授たち、研修教会と教会の方々、バプテスト連盟の諸教会と全国壮年会連合と女性連合...といった絆は、思いがけない神さまからのプレゼントのようなものでした。決して私ひとりではないこと、共に歩いてくださるイエスさまはもちろん、日本各地で、私のことを応援している誰かが存在することは、言葉では表現できない大きな慰めと恵みであります。

外国人であり、女性である自分が神学を勉強していくこと、そしてこれから日本で働き人となっていくためには、乗り越える山がたくさんあるだろうと、この道が本当に私が行くべき道であるのか、いつも問いかける日々を過ごしています。しかし、神さまが備えてくださった大切な出合いがあり、いつも誰かが私と共に歩んでくださっていたので、神さまのご計画と導きを確信して今まで頑張ってきました。これからも、与えられる出合いと絆を大切に、神と隣人をもっと深く愛する者になりたいと願っています。



◎西南学院大学神学部「教義学C」授業風景